様式第１号

令和８年度　学校経営計画書

学校番号	4	学校名	静岡県立伊豆伊東高等学校（定時制）	校長名	小川　友和

【教育目標】（伊東地区新構想高等学校基本計画）

自ら考え、行動する力を持ち、豊かな感性と教養を身につけ、他者と協働し、未来を創造する人間を育てる。

【教育方針】（伊東地区新構想高等学校基本計画）

(1) 高いこころざしを育み、探究活動を通して、自分の将来に向けて成長する生徒を育てる。
(2) 専門的･先進的な知識を身につけ､様々な体験を通して､生涯にわたり学び続ける生徒を育てる。
(3) 多様性を理解し、人とのかかわり合いを通して、グローバルな視野を養い、地域の発展に力を尽くす生徒を育てる。

【校訓】

真理を尊ぶ人であれ　　価値を生み出す人であれ　　他者を支える人であれ

１　スクール・ミッション

東豆地区の高校教育の拠点として、個に応じた新しい時代の学びに対応した教育活動を展開することで、未来を創造する人材の育成を目指す。

２　スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
～本校では卒業までにこのような資質･能力を身に付けます～ ・基礎的知識･技能（豊かな感性、豊かな教養） ･個々の生徒の志向に応じた専門的知識・技能 ・情報収集・分析力（確かな情報収集、幅広い視野、深い洞察力） ・課題発見力、解決力（論理的思考力、構想力、ポジティブシンキング、発信力） ・セルフコントロール（感情制御力、ストレスに対応する力、レジリエンス、粘り強さ） ・自分らしさの創出（自己肯定、工夫する力、突破する力、独自の発想力） ・責任ある行動を取る力（挑戦する意欲、目標の明確化、効果的な計画立案） ・協働する力（チームワーク、リーダーシップ、柔軟性、コミュニケーション能力）	～本校ではこのような学びを行います～ ・中学校までの学習の学び直しの充実 ･併置する特別支援学校との日常的な共生・共育、多様な生徒の実態に応じたソーシャルスキルトレーニング ･伊東地区の豊かな自然環境や観光資源を活用し､社会への視野を広げ社会自立につなげる探究的な学び ･特別活動や部活動においても育てたい資質･能力を伸ばすことを目指した取組	～本校ではこのような生徒を求めています～ ・自ら考え、行動する力を伸ばす意欲のある生徒 ･豊かな感性と教養を身につける意欲のある生徒 ･他者と協働し、未来を創造する意欲のある生徒 ・校訓に基づき、将来にわたり、真理を尊び、価値を生み出し、他者を支える人でありたいと希求する生徒

様式第１号

３　スクール・ポリシー具現化の柱

本校では、グラデュエーション・ポリシーで示した「８つの力」を卒業までに「育てたい力」として位置付けた。定時制高校に進学してきた生徒の実態をふまえ、また、「育てたい力」を伸ばす新しい学校の教育活動を推進するため、以下のア～キをスクール・ポリシー具現化の柱とする。

ア　基本的生活習慣を定着させるとともに、社会性を高め、他人を敬愛する心を育てる。
イ　基礎・基本の理解を深め、確かな学力に結び付けるとともに、個々の特性・志向に応じた学力の向上を目指し、授業改善を図る。
ウ　自己や職業に対する理解を深め、自立した生活を送る意識や進路意識を育てる。
エ　学校行事、生徒会活動、部活動などへの参加を促進し、心豊かな生徒を育てるとともに、自己肯定感を向上させ、自分らしさの創出を図る。
オ　健康、安全な生活を送るため、心身の自己管理能力を向上させる。
カ　定時制教育に対する理解を深める。
キ　業務改善により教員の豊かな教員人生を確保し指導の質の改善をはかる。

４　本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	基本的生活習慣を定着させるとともに、社会性を高め、他人を敬愛する心を育てる	・家庭や関係機関との連携を密にし、生徒の学校・家庭及び職場での状況を的確に把握することで、生徒が学校に登校できるように指導の工夫を図る。	・年間出席率90％以上 ・生徒情報の共有機会の設定（年間10回以上）	教務
		・特別活動や講演会等でソーシャルスキルを学び、自己肯定感を高める。	・認知したいじめについて、未解決の件数０件	生徒
イ	**基礎・基本の理解を深め、確かな学力に結び付けるとともに、個々の特性・志向に応じた学力の向上を目指し、授業改善を図る**	・授業のユニバーサルデザイン化や主体的・協働的な学びの視点からの授業の見直し等、指導方法の創意工夫に努める。	・授業評価アンケートの授業に対する評価８項目のうち、Ａ評価の割合75％以上が５項目以上	教務
		・「高校生のための学びの基礎診断」の趣旨を踏まえ、学習意欲を喚起し各教科の基礎学力を測る「総合コンクール」の充実に努める。	・学力系５種目のコンクールでの平均得点率が70％を超えるものが３種目以上	教務
ウ	自己や職業に対する理解を深め、自立した生活を送る意識や進路意識を育てる	・面談週間等を活用し、生徒の就業状況を把握するとともに、未就業者に対する指導の工夫を図る。	・各学年の生徒の就業率（アルバイトを含む）が70％以上	教務
		・進路ガイダンス（就職、進学説明会）や社会人との座談会を実施し、低学年から自己理解を深めるとともに、それを進路意識の向上につなげる。	・「自分の将来に対するはっきりした夢や希望を持っている」回答生徒60％以上	教務
エ	学校行事、生徒会活動、部活動などへの参加を促進し、心豊かな生徒を育てるとともに、自己肯定感を向上させ、自分らしさの創出を図る。	・遠足、球技大会、生徒会行事などの学校行事や東部定時制合同文化祭への積極的な参加を促し、自己啓発の機会を与える。	・主要な学校行事、東部定時制合同文化祭への参加率85％以上	生徒

様式第１号

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
オ	**健康、安全な生活を送るため、心身の自己管理能力を向上させる**	・保健教育や啓発活動等により、生徒の健康に対する意識を高めるとともに、健康観察や各種保健調査により生徒の健康状態を把握し、働きながら学ぶ生活を実現する上で適切な指導を行う。	・朝食摂取率60％以上 ・10時前起床率70％以上	生徒
		・交通安全教室・二輪車グッドマナー講習会や交通事故防止啓発資料の配布等により、安全意識を高める。	・交通事故件数３件以内 ・交通違反件数０件	生徒
カ	**定時制教育に対する理解を深める**	・保護者や地域に対する情報提供を充実させるとともに、保護者学校評価アンケートを実施し検証する。	・保護者アンケートで、学校に対する満足度80％以上	教頭
		・定時制教育を理解してもらうため、新聞等に積極的に発信していく。	・定時制関連の記事が新聞等に掲載される件数年間６回以上 ・定時制ＨＰの「日々の生活」記事を投稿する件数年間40回以上	管理職
キ	業務改善により教員の豊かな教員人生を確保し指導の質の改善をはかる	・生徒間の円滑な人間関係の構築によりトラブルを減少させ、自己研鑽や生徒との関わりの時間を作り出す。	・「学校に信頼できる先生がいる」「授業の内容が理解できている」回答生徒80％以上	教頭
		・業務の整理を図り、定時退庁に結び付ける。 ・年次有給休暇の取得日数の増加を目指す。	・緊急対応以外の最終退庁時間内での退勤90％以上 ・全職員の年間での年休取得日数10日以上	教頭